中部国際空港

【実施主体：個社】

中部国際空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【短期】	賃上げを含む処遇改善のために不可欠な受託料の引き上げ	インフレ等に基づく価格改定の実施	従来より、必要人員、GSE等に基づく受託金額を設定。昨今のインフレ状況等を勘案した算出基礎単価の改定を実施し、それに基づくて新規受託価格の見直しや価格改定を実施	
		ハンドリング料金の値上げ交渉	人件費、物価上昇に対する受託料値上げの交渉（継続取り組み）	受託料値上げ交渉を実施し、数社値上げを行った。
		外航受託料の引き上げ	本社にて、外航受託料の引き上げ交渉を実施。	
		自社グループ空港運営会社への委託料の引き上げ	本社にて、自社グループ空港運営会社の処遇改善の原資として委託料の引き上げを実施。 R6年度の委託料金引き上げを調整中。	
		検査会社への委託料の見直し	本社にて、国内定期航空保安協議会を通じて、R5年度契約料の引き上げを実施。R6年度契約料金の引き上げを実施。R7年度契約料の引き上げを実施するとともに処遇改善状況を確認。	
		処遇の改善	R5年度ベースアップ、初任給アップ、公休数増を実施。 R6年度ベースアップ、若手～中堅層の昇給額の見直し、公休数増を実施。	
		処遇の改善	R6年度ベースアップを実施	社員のベースアップを実施。
		受託各社への受託料金の値上げ交渉	人件費、物価上昇に対する受託料値上げの交渉	各社交渉中
【短期】	人材確保にマイナスに働く受託契約の内容の適正化（キャンセル料の設定　等）	検査会社への委託契約条件の設定	本社にて、検査会社への委託契約に時間保証を継続して設定。検査場のレーン数に応じ総括責任者の配置も支払い対象化。	
		外航受託契約条件の見直し	本社にて、最低保証条項やキャンセル料条項の導入を検討・実施中。	
【短期】	職場環境改善に向けた取組の推進	女性用更衣室の確保	空港会社の共用更衣室を借りている。	

【実施主体：個社】

中部国際空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【短期】	職場環境改善に向けた取組の推進	給油車両の入れ替え	国際線の復便が増加している中、2007年製給油車両2台を24年1月頃及び25年1月頃にタイミングを計って入れ替える予定。（2025年1月に2台増車（入れ替えについては検討中））	
		連絡車の入れ替え	経年劣化（2001.2006年式）が進んでいる連絡車両2台を入れ替える予定。（EV車両を2024年12月に1台納車、残り1台は2025年夏季に納車予定。）	
		オフィス環境の改善	オフィス内の什器（机、椅子）入替え及びレイアウトの変更を行い、作業効率の向上に繋げる。	オフィスや休憩室の什器入れ替え等を行い、職場環境改善を図った。また同時にレイアウト変更で効率向上を図った。
		職場環境の改善	グランドサービス部スタッフ待機室のレイアウト変更（待機スペースの改善）、貨物上屋スタッフへの空調服、上屋内環境改善（夏季期間、空調ファンなどの設置）など	
		事務所環境改善（LED化） 休憩室の改修 待機室の改修	旅客サービス部の事務所照度向上 休憩室内什器類、備品類の更新 待機スペースのレイアウト変更	
		飲食に関する福利厚生施策	自販機の更新	
		施設・設備の改善	機用品棟 ・休憩スペースを拡大 ・オフィス環境の整備（空調新設、什器更新） ・スペースを有効活用したレイアウト変更（不要な作業エリア→会議室、打ち合わせブースに変更） 貨物上屋 ・事務所レイアウト変更を実施（什器更新、打ち合わせブース新設など）	
		運搬車両の更新	新しい車両に更新することで、操作性、快適性、安全性を向上させる	来年度以降も、中長期的に順次更新予定
		制服の刷新	より快適で動きやすく、かつデザイン性も重視した制服に刷新し、従業員のエンゲージメント向上に繋げる	

【実施主体：個社】

中部国際空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【短期】	職員の負担の集中を回避するための正確な現状把握	生産対応状況の確認	受託航空会社の旅客、ランプ取扱い便数と輸入・輸出貨物の取扱い重量実績にて、生産対応状況を毎月把握。	生産対応状況の確認により、増便及び新規受託が可能な時間帯などを把握。結果、それらの時間帯での取り扱い便数増に寄与。
		生産量ならびに生産対応状況の把握	生産対応状況を毎月把握	
		生産量ならびに生産対応状況の把握	本社にて、自社グループ空港運営会社の生産対応状況を毎月把握	
		生産性向上のため業務改革プロジェクト	外部コンサルタントの監修による生産性向上・業務効率化により働きやすい職場作りを目指す	
【短期】	適切な業務量調整による高負荷の抑制	グラハン各社従業員へのアンケート調査	グラハン各社従業員へのアンケート調査を実施、業務量等の現状把握をし、高負荷の部分があれば業務の効率化に資する施策を検討予定	
【短期】	採用活動の推進（グラハン経験者採用の強化（Uターン・Iターンの活用） 等）	月2回の入社・入社研修実施	当社トレーニングセンターでの初期研修を月2回実施することで、採用機会を月1度から2度へ拡大し、採用可能人員数を増加	
		マイナビ転職サイトに事業所や給油作業の撮影を依頼	給油作業及び事業所の雰囲気が分かる写真を撮影し、マイナビ転職サイトへ掲載した。	
		合同企業説明会への参加	会場へ自社のブースを設置し、説明会参加者への企業内容の説明を行った。 自社ブース訪問者（11名）	
		オンラインでの企業説明会実施	参加者は1名のみだったが、給油作業風景の紹介も含めた企業説明を行った。	
		航空機給油業務のアピール動画やインタビュー動画作成	制作会社へ依頼し、航空機給油業務のアピール並びに所長・所員のインタビュー動画撮影及び企業説明会や会社HP、Youtube、TikTok用に複数パターンの動画を作成する。	企業説明会等で給油会社のブースに集まる参加者の増加が見込まれる。また、Youtube、TikTokなどに掲載することで、航空機給油の認知度アップに繋がる。
		既卒採用の実施	経験者採用の実施。	R5年度既卒採用予定数：43名 （今後採用予定分含む）

【実施主体：個社】

中部国際空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【短期】	採用活動の推進（グラハン経験者採用の強化（Uターン・Iターンの活用） 等）	インターンシップの実施	汎用的能力・専門活用型インターンシップ（タイプ3）を実施。	
		既卒、第2新卒採用の実施	経験者、他業種などからの採用の実施	R5.10月入社～R6.2月入社：計45名採用
		カムバック採用の導入	R6.4入社分から実施	R6.4入社 1名予定
		専門学校向けグループ合同説明会の実施	航空系専門学校にてグループ合同説明会を実施。	
		SNS広報の強化	空港業務の魅力を発信する動画を製作。R6年度内に公式SNSに掲載。	
		ワークプレイス制度の実施	自社グループとしてリテンションを図るべく、働く場所の事情に応じたグループ内転籍制度の運用を実施	R5.4以降 90名程度応募あり（グループ全体）
		中途採用実施	6・7月に中途採用入社	
		グループ空港運営会社合同採用イベントの実施	グループ空港運営会社合同で、採用WEBイベントを実施。	
【短期】	教育期間の短縮に向けた工夫（実践技術に特化した訓練等）	技能別での集中型初期導入研修の実施	旅客、ランプの技能別での集中型の初期導入研修を本社主導で開催（これまでは各支店で個別に対応）	初期スキル研修を集約化することによる各支店での研修担当、スキルホルダーの負担軽減
		運転訓練場の使用推進	制限区域内で車両を運転するにあたり、特殊車両も数多く存在するが、その訓練をする場所を提供	
		e-ラーニングの使用推進	制限区域内での運転承認を受ける者に対する運転講習で、いつ・どこでも受講が可能になるよう、e-ラーニングを使用	

【実施主体：個社】

中部国際空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【短期】	教育期間の短縮に向けた工夫（実践技術に特化した訓練等）	座学教育を2部制	旅客サービス部の座学教育を日勤時間ではなく、早番、遅番の2部制にすることで訓練端末の稼働率を上げ、採用人数を増	
		他空港での資格取得	自空港では取得に時間を要す資格等について、就航便数の多い空港で短期集中で社内資格を取得	
		係員の訓練時間の適正化	本社にて、受託にかかる訓練時間の短縮余地の精査を実施。	
		ランプ訓練用VRシミュレータの導入	本社にて、航空機の使用や時間的制約に縛られない訓練を可能とするVRシミュレータを開発し導入。	期待効果 ・プッシュバック/トーイング訓練期間を39%削減（想定） ・訓練1回当たりの所要時間が減少し、1日当たりの訓練回数が4倍に増加。移動時間なども削減。 ・機材損傷などにつながりかねない事象の模擬体験が可能になることによる安全意識の向上
【短期】	需要回復の進捗状況に応じた、限られたリソースの集中的な投入			
【中期】	長期に誇りをもって勤められるキャリアパスの整備	グループ内異動の公募の実施	空港横断的な配置によるキャリア形成を支援すべく、空港部門内でのグループ会社間異動の公募を実施。	
		人財ポートフォリオの見直し 教育体系の見直し	2030年までを理想とする、経営戦略と連動した中長期的な人事戦略の軸として活用することで、人的資本（企業価値）の最大化に繋げる	
		人事制度の改革	挑戦、改善に取り組む姿勢を重視した 新しい企業風土の醸成によりモチベーション向上を図る	

【実施主体：個社】

中部国際空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【中期】	ハード・ソフトの両面からの職場環境改善の推進	女性社員でも活躍できる職場環境の整備	女性でも使用できるB737用の脚立が搭載されている給油車が2台しかないため、新造車両に現状の脚立（90cm）より20cm高く取り降ろしが容易な構造の脚立（110cm）を搭載し、車両台数を増やす予定。 （2025年1月　4台に搭載完了。）	
		デジタル化の推進	社内情報共有の迅速化や情報伝達方法の共通化などを目的に、先ずはグループウェアを導入予定	R6.3より、グループウェアを導入。社内情報共有の迅速化、各種申請がペーパーレスとなり、より効率の良い運用へと繋げた。
		施設・設備の改善	休憩室の改善を実施。	上記以外の休憩室などを検討
		貸与品の改善	より快適な制服（グラハンポロシャツ、ファン付きベスト）やヘルメット、タブレット使用も可能な高機能手袋の購入。 個人のニーズを踏まえた貸与ルールへの改善。 暑さ対策として、JSAA規格プロテクティブスニーカーのトライアル実施。	R6年度より配備予定
		自動化・省人化の推進	開発中の自動着脱旅客搭乗橋、自動運転トーイングトラクター、自動着脱ハイリフトローダーの実証実験を実施中。既製品の省人省力機材の導入を加速。	NGO関係：Mototok、Powerstowの配備
		処遇改善を前提とした生産計画	公休増、有休取得増を前提とした生産計画を実施。	R6年度より公休数を6日増（年間公休116日）
		カスタマーハラスメント対策の推進	同業他社間において、共同で「カスタマーハラスメントに対する方針」を策定。	
		従業員駐車場の配備	公共交通機関による通勤から自家用車での通勤により、通勤時間の負担を軽減。	
		休憩室の拡充	休憩室スペースの拡大、設備の充実を検討中	
【中期】	特定技能制度の積極的な活用	採用の拡大	特定技能向け人材紹介会社と契約。人材紹介会社が運営する現地校にて会社説明会を実施予定。	

【実施主体：個社】

中部国際空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【長期】	短時間労働やマルチタスク化を含む多様な働き方の実現	多様な働き方の推進	短時間、短日数深夜勤務者の適用年齢引き上げ	
		多様な働き方の推進	短時間労働・マルチタスク導入に向けた事例紹介およびフォロー	
【長期】	業務内容や技術に応じた賃金の設定			
【長期】	就航メリットを享受する主体間のリスク分担の実現			
【長期】	人件費圧縮競争を防止する観点からの多重委託構造や雇用慣行・契約慣行の見直し（保安検査における長い拘束時間の見直し　等）			

【実施主体：空港会社等】

中部国際空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【短期】	空港内の労働環境の改善	①制限区域内従業員向け休憩室の設置 ②ターミナル内休憩所ソファーの刷新 ③ターミナル内ロールスクリーン設置（日射対策） ④荷捌き場内空気循環改善（トライアル実施済） ⑤自動運転車いすの導入 ⑥荷捌き場へのAED設置 ⑦荷捌き場内の路面標識改良 ⑧荷捌き場内へのトランスファーベルトの設置（トライアル中）	①制限区域内に従業員向けの休憩室が無く、ターミナル1,2それぞれに休憩室を設置 ②清潔で快適な休憩環境の確保 ③日光の差し込みによりゲート端末が見えにくいことから日射対策を実施 ④暑さ対策のため ⑤移動距離の長いT2に導入 ⑥制限区域内では初めての設置 ⑦歩行者用グリーンベルトの設置、および、車両通行帯の改良 ⑧グラハン会社とも協働し検討中	
【短期】	空港の知名度を生かした採用活動（空港単位の合同説明会等）	合同採用説明会の開催	空港WGにて合同採用説明会を計画、空港内事業者10数社と連携し、空港業務の紹介を中心とした合同採用説明会を開催	当説明会をきっかけに実際に採用に繋がった事例を複数確認。
【短期】	マルチタスクを担うことができる空港人材の育成に向けた研修	自社オペレーションセンターでの研修	自社オペレーションセンターにて、場面管理・灯火・無線・保安・警備・防災など、空港運用に関するマルチタスクを担うことができるよう、随時研修を実施	
【短期】	空港WGの活用推進	関係機関や団体への情報発信	運航便の受け入れに資する情報発信・共有、運航便の受け入れに関する連絡調整、グラハン関係に関する中部空港事務所と連携した情報発信、各種補助金等の申請など	
【中期】	GSE車両の共有化・共用化の推進	一部GSEの共用化	ターミナル2ステップ車やPBL車は共用化を実施済 さらなる対象拡大に向けた検討中	
【中期】	男女比の極端な偏りの解消に向けた取組推進（「旅客は女性」等のイメージ払拭、更衣室等の施設整備　等）	和式トイレの改善	制限区域内には和式トイレが残っている場所があり、まずは女性トイレより洋式への変更を実施	
【長期】	就航メリットを享受する主体間のリスク分担の実現			

【実施主体：空港会社等】

中部国際空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【長期】	スマートレーン等の先進機器の導入	PRS、CUSS、SBD、スマートレーン、自動走行PBB、自動運転バスの導入	左記をはじめとする省人化、効率化に資するシステムについて、運航者とも連携しながら一部システムの導入を完了、その他は引き続き導入検討、準備中。	
【長期】	サプライチェーン等を意識した効率的な設備配置に向けた調整	PRS、CUSS、SBD、スマートレーン、自動走行PBB、自動運転バスの導入	・左記をはじめとする省人化、効率化に資するシステムを空港会社が主体となって、導入検討。 ・GSE共用化の拡大検討を開始	

【実施主体：地方自治体】

中部国際空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【短期】	地元グラハン会社・検査会社とのコミュニケーションの強化（人員体制等の正確な現状把握　等）	関係団体への情報発信	雇用施策についての情報を空港WGを通じ各事業者へ展開。	
【短期】	空港業務は地域の雇用を支える地場産業であるという観点から、部局横断的な連携の下での取組の実施	関係団体との情報共有等	労働部局への雇用対策協力依頼を実施。	
【短期】	空港業務支援も誘致支援の一部と位置づけた上での関係部局（観光、産業振興　等）と連携した支援の実施	空港受入体制整備に係る取組	中部国際空港利用促進協議会における、空港受入体制整備に係る取組を実施。	
【短期】	空港WGの活用推進	関係団体への情報発信	雇用施策についての情報を空港WGを通じ各事業者へ展開。	
【中期】	地方経済を支える空港業務の担い手が真に求めている支援措置の検討（空港アクセスの不便さ等を考慮した住居支援、通勤支援　等）			
【中期】	特定技能の在留資格を有する外国人が地域に馴染むための環境整備			
【長期】	就航メリットを享受する主体間のリスク分担の実現			
【長期】	持続可能な観点からの戦略的な路線誘致（交通部局と観光部局との緊密な連携）	エアポートセールスや利用促進事業における航空ネットワークの拡充	知事等によるエアポートセールスの実施。 中部国際空港利用促進協議会における、イン・アウトバウンド事業の実施。	
【長期】	地方経済を支える空港業務の担い手が真に求めている支援措置の充実			

【実施主体：国】

中部国際空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【短期】	各空港におけるベストプラクティスの横展開（事例収集・整理　等）	他空港の導入事例等の横展開	空港会社と連携し、空港WGにおいて、航空局HPに掲載されているベストプラクティス等の他空港事例について横展開を行った。	
【短期】	地域の意欲的な取組への積極的な協力（空港説明会への参画等）	空港会社等への協力・連携	説明会等への協力・参画（空港見学の実施、空の日を通じたPR等）	
【短期】	生産性向上・業務効率化の実現に向けた取組支援（先進機器の整備補助　等）	補助金制度の利用促進と要員雇用確保の促進等	中部国際空港グランドハンドリングWGにおいて、中部国際空港（株）と連携して、補助金制度の情報提供と同制度の利用促進と要員雇用確保の促進に取り組んだ。併せて、空港関係事業者が参加する他の会議体（JCA幹部会）においても、中部空港における重要な課題として共有するとともに、課題解決に向け補助金制度の利用促進と要員雇用確保の促進等に取組むことについて共通認識を図った。 国際線受入れWGにおいて、航空会社の復便等の事業計画を前広に入手し、円滑に復便再開・新規就航できるよう関係機関との調整を行っている。	
【短期】	各主体による取組の重要性の発信	ありがとうポスターの普及	空港業務に従事する方が『この仕事に意味がある』と実感できるよう、ポスターを作成し、中間とりまとめの公表に合わせ所内職員に対して周知を徹底。	
【短期】	空港WGの活用推進	補助金制度の利用促進と要員雇用確保の促進等	中部国際空港グランドハンドリングWGにおいて、中部国際空港（株）と連携して、補助金制度の情報提供と同制度の利用促進と要員雇用確保の促進に取り組んだ。併せて、空港関係事業者が参加する他の会議体（JCA幹部会）においても、中部空港における重要な課題として共有するとともに、課題解決に向け補助金制度の利用促進と要員雇用確保の促進等に取組むことについて共通認識を図った。 国際線受入れWGにおいて、航空会社の復便等の事業計画を前広に入手し、円滑に復便再開・新規就航できるよう関係機関との調整を行っている。	
【中期】	空港DXの導入促進に向けた実証実験	他空港の導入事例等の横展開	空港会社と連携し、空港WGにおいて、航空局HPに掲載されているベストプラクティス等の他空港事例について横展開を行った。	

【実施主体：国】

中部国際空港

	項目	具体的取組事例	取組内容	備考（効果等）
【中期】	更なる支援措置等の検討（人材確保・育成、業務効率化、GX／DX　等）	地方空港等受入環境整備事業費補助金制度の活用推進	空港会社とも連携し、航空・空港関係者の人材確保・育成等、生産性向上に資する取組や国際線の受入環境高度化の推進に係る補助事業を事業者に紹介するなど、補助金制度の活用を推進した。	
【長期】	先進技術等の開発・実証、更なる活用の推進			
【長期】	業界ルール整備を前提とした、専門学校との連携強化や共同訓練の推進			
【長期】	処遇改善・業務効率化等に必要な保安関係料金の適正水準のあり方の検討			
【長期】	必要に応じた制度的見直し			
【長期】	空港に関する基礎的データの収集・整理（職員数、年齢構成、年代別年収、離職率　等）			